

## 静岡県で活躍する県外出身の医師の皆さん

静岡県の医療機関での勤務を望み、県外から赴任された医師の皆様にお話しを伺い、そのきっかけや本県の医療に関する思いなどを御紹介いたします。

今回は、平成 29 年 4 月から、静岡県伊豆市の修善寺駅から程近い伊豆赤十字病院に内科部長として赴任された上田 研先生を御紹介いたします。

### ○静岡県で勤務することになったきっかけは何ですか。

2013 年 4 月に 2 週間日赤本社からの応援で伊豆赤十字病院に勤務しました。そこでは外来から入院まで一人の患者さんを自分でそのまま診ることを経験しました。個人的には一般内科の診療の自信があったのですが、心不全の患者さんを良くする事ができず、高次機関に搬送する機会がありました。大病院では、診療の専門分化が進んでおり、診断確定後や専門治療が必要な患者は専門診療科に入院治療をお願いしておりましたが、自分一人で診療する体制で、はじめて今までは振り分けが中心で直接治療をした経験が少ないことに気づきました。初診から退院後の外来通院まで責任を持って診療を行いたいとの気持ちが芽生え、内科修行を重ねた後に今回、再度伊豆赤十字病院勤務を希望し赴任となりました。



伊豆赤十字病院 内科部長  
上田 研 先生

### ○静岡県で勤務してみたの感想はいかがですか。

まず、自分が目指す医療を以前よりは実践できるようになったと感じています。一方で、この地域は高齢者が多く、土肥や戸田地区などは最寄りの当院へも 1 時間の移動時間が必要な状態です。しかし当院は市内では中心部にあり、住民の方のためには、医療機能が分散されるより集中化や拠点化する必要があるのではと思います。他県では、大学が市民病院を全面的にバックアップして、拠点化を進めているところもあります。将来的には近隣医療機関と連携し中核となる医療機関ができればいいと思います。

また、専門医などの資格が取れない状態では若手医師は集まりません。基幹病院と連携して当院も教育の一部に参加していければと思います。現在は横浜市みなと赤十字病院から初期研修医が地域医療研修として 1 ヶ月交代で赴任しており、以前よりは活気があり、よりよい環境になってきています。

### ○静岡県でやりたいことはありますか。

伊豆市では地域の交流が盛んで、「ふれあいサロン」と称して、高齢者を対象に公民館での会合が行われております。そのうちの年間 20-30 回、当院で健康相談として参加しています。現在は自治医大出身の院長先生が主で行われておりますが、いずれはそうした活動に積極的に参加したいと思います。小さな医療圏ですので顔の見える関係を伊豆市や近隣医療機関と構築したいと思います。

また、静岡県は海と山に恵まれています。時間を見つけて山に登ったり、海の幸を存分に味わってみたいですね。伊豆の名産はしいたけとわさびですが魚もおいしいですし、当直明けの温泉も最高です。

### ○静岡県と他県の医療で感じた違いはありますか。

この地区では、高度医療は順天堂静岡病院に頼っているのが現状です。もし受入不可能となったら、沼津市立病院や伊東市民病院へお願いすることとなります。高次機関が限られ、移動が遠くなるという地域性の難しさがあります。

また、多くの施設では、何かあればすぐに病院へ頼る傾向があり、医療としてのパワーが不足しているように思えます。高齢化率の高い地域では、体調の変動にも対応できる医療が必要であり、「施設以上、病院未満」の機能強化が必要とされます。

### ○これから静岡県で働こうとする他県出身の若手医師に送る言葉をお願いします。



静岡県は海や山に恵まれた住みやすいところですが、現在は専門医制度の変遷もあり、進路選択の難しさはあるとは思いますが、伊豆赤十字病院に来ていただければ、私が責任を持って指導します。

少数精鋭の仲間と限られた医療資源の中にあっても、大病院に負けない医療をやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

御自身の信念をきっかけに伊豆赤十字病院に勤務されている上田先生は、優しい雰囲気の中に強い意志をもちながら、地域の医療を支えています。今後も住民の皆さんの頼りとなり、若手医師を育てる病院の中心的な存在として活躍が期待されます。

#### 【上田 研 先生】

2000年3月	国立三重大学医学部	卒業
2002年4月	武蔵野赤十字病院	消化器科
2007年4月	〃	総合診療科、消化器科
2014年7月	相模原赤十字病院	内科副部長
2017年4月	伊豆赤十字病院	内科部長